

# LEDアート絆プロジェクト「徳島大学助任ワンダーランド」2016

## 事業のポイント

- アートによる地域活性化
- 学生参画型の総合的教育実践プログラムの実践

## 事業代表者・連絡先

平木 美鶴(徳島大学 大学院総合科学研究部・教授)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1(絵画表現研究室)  
tel / fax: 088-656-7167  
e-mail: hiraki.mitsuru@tokushima-u.ac.jp

## 事業の概要

### 1. 事業の目的

アートによる地域活性化としてLEDの光をテーマとした、作品の制作実習を通して地域の活性化と総合的教育実践プログラムの実践を計る。

### 2. 事業の取組状況

今年度はLEDアート絆プロジェクト「徳島大学助任ワンダーランド」2016が12月20日～1月27日まで開催されるため、同時期である12月16日～12月25日まで開催される徳島市主催の「徳島LEDアートフェスティバル2016」と連携した作品作りを行った。徳島市がこれまでの私たちのLEDアート作品制作活動を評価してくれ、地域大学枠で作品の出品を要請し、制作補助費40万円を支給してくれた。

作品は、理工学部情報光システム技術専門職員辻明典氏の発案と技術協力を得ながら巨大LEDディスプレイを制作した。ディスプレイは18cm程度の大きさの六角柱にLEDを入れて面発光させたものである。その1個1個をマジックテープで固定して積み重ねることで可変式巨大LEDディスプレイとなる。常三島キャンパスの助任の丘前にある地域創生・国際交流会館の建物5、4、3階の窓に設置した。この制作は総合科学部の授業「工芸表現と技法」学生数9名、「アート創生プロジェクト」学生数16名、大学院の授業「プロジェクト研究1」学生数3名で行った。総合科学部地域創生コースデザイン表現研究の佐原理准教授とその研究室学部学生や絵画表現研究の大学院生が観客参加型メディアアート4作品を公開し、オープニング映像4作品を映した。助任の丘のイルミネーションは昨年とおなじデザインで「渦」とした。巨大LEDディ

スプレイと共に同じ場所の展示だったので相乗効果が生まれ華やかな場となった。

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

「助任ワンダーランド」として常三島キャンパスをLEDで装飾する活動も今年で6年目となり、年々、徳島市民への認知度も高まり、定着した活動となってきた。オープニングには、教養教育院の宮澤一人教授(専門作曲)のメディアアート作品を使った演奏もあり、多くの学生や教職員が参加した。「徳島LEDアートフェスティバル2016」は、会期中、徳島県のみならず日本各地より20万人以上の観客が集まる注目度の高い催しである。今回のディスプレイ作品とイルミネーションは徳島大学の地域貢献を広く宣伝する効果があった。期間中様々な企業・団体から関心を示されたが、その一つである東北の復興団体より巨大ディスプレイを本年度の3.11復興行事に使用したという申し出があった。また、学生たちは制作したものが発表される達成感を持つことができ教育効果も高かった。このような文系と工学の協力体制を作り出している事も成果である。今後の展開としては、文理工の融合による総合的教育実践プログラム体制作りを更に進め発展させたい。

